

キャリアマネジメント(Ⅱ)学習指導案

指導者 檜和田祐介 (T1) 小田原 舞 (T2)

日 時 平成25年11月30日 (土) 第1校時 10:00～10:50

年 組 中学校全学年3組クラフトグループ 7名(男子4名, 女子3名)

場 所 中学校マルチルーム→中学校3-3教室→中学校マルチルーム

単 元 私たちの東雲コーポレーション

～販売準備・製品を商品に～

単元について

特別支援学校卒業者の企業等への就職は依然として厳しい状況にあり、障害者の自立と社会参加を促進するため、企業や労働関係機関等との連携を図った職業教育や進路指導の一層の改善が求められている。これまで、社会の変化、児童生徒の実態の多様化、高等部への進学率の上昇に伴い障害の状態が軽度から重度まで幅広くなっていることなどを踏まえ、一人一人に応じた指導をより適切かつ効果的に進める観点から、改善すべき点は何か、職業的な自立を一層促進する観点から、改善すべき点は何かといった課題の解決・改善に向け学習指導要領の改訂が行われてきている。新学習指導要領ではその改訂のポイントとして、自立と社会参加を推進するため職業教育等の充実、があげられ、特別支援学校(知的障害)における職業教育を充実するため、高等部の専門教科として「福祉」を新設、地域や産業界と連携し、職業教育や進路指導の充実を図ることを規定されるなどしている。さらに、特別支援教育の中等教育段階では、全教育活動を通じてキャリア教育の視点を踏まえた実践の充実が求められている。

「働くこと」は経済的自立を達成する手段であるとともに、自己実現にもつながる重要な社会参加である。学校を中心とした生活から、就労を含む社会生活への移行期である中等教育段階において、自己を適切に把握し、将来の自分の姿を具体的に考えていくことや、就労に対する意欲や社会生活に必要なマナーやスキルを身に付けていくことは、特別支援教育におけるキャリア教育の推進において重要な視点であると考えられる。

今年度、本校は文部科学省の研究開発学校の指定を受け、平成28年度までの計画で「中学校特別支援学級における社会的・職業的自立を目指した、生活力を育成するためのカリキュラムの研究開発」に着手した。

本学級ではこれまでの4年間に社会参加と自立の視点から指導内容の見直しを行い、新たなスタイルの職場体験学習や、合わせた指導の形態である作業学習の在り方に関する研究を行い、自己肯定感を持ち、将来、働きたいという意欲を高めることに成果を上げてきた。一方で、生徒の社会的・職業的自立を目指した指導内容は多くの教科・領域に含まれており、整理していくことが必要であると考えている。そこで、今年度は指導内容を整理し、教育課程およびカリキュラムの見直しを行い、新たに「キャリアマネジメント」として実施することとした。現段階では、キャリアマネジメントにおいて指導する内容は多岐にわたるため、便宜的にキャリアマネジメントⅠ・Ⅱ・Ⅲの区分を設けている。キャリアマネジメント(Ⅱ)では主として働くとはどういうことなのかを指導の中心に据え、作業活動の質的変容を意識した指導を行うこととする。

本学級は中・軽度の知的障害特別支援学級である。個々に課題はあるが、概ね基本的な生活習慣が確立している。適切なコミュニケーションをとろうとしたり、指示にそって行動しようとしていたり

するなど、集団生活の中で自己の力を発揮して学校生活を送っている。卒業後は地域の特別支援学校や専門学校に進学するが、将来の就労を意識して、特別支援学校職業コースへの進学を希望する生徒も増えてきた。本学級ではこれまでに、あいさつ、マナー等の学習の他、職場体験学習、工場見学等、社会生活や職業生活に必要な事柄について学習を積み重ねている。並行して、各学年では自己理解を深め、将来像を描く学習、様々な職業調べ、上級学校調べ等の学習も行い、体系的にキャリア学習を積み重ねている。

次に本単元に係わるコミュニケーションおよび課題遂行に関わる生徒の実態をあげる。

指導場面	支援の必要な生徒		
	1 学年	2 学年	3 学年
自分から進んで挙手や発表をする。	⑫		⑧
他者の意見を聞いて自分の考えを伝える。		⑩	⑨
連絡や報告を適切に行う。	⑫	⑩	⑨
指示内容を理解して作業を行う。		⑪	
一定の作業を反復する。	⑬		⑤
役割分担に沿った作業を行う。			⑧
集中して課題に取り組む。	⑬		
協力して活動を行う。		⑪	

* 網掛は女子

本学級では従来の作業学習に経営の観点を取り入れ、生徒が共同で運営していくようなスタイルの学習を行っている。学級全体を一つの会社（東雲コーポレーション）に見立て、3つの部署（クラフト・食品加工・情報サービス）を置く。各部署にはリーダー、サブリーダーを配置し、指導者と連携して業務内容や作業分担などを相談し、授業を進めていく。協力と分業によって作業を行うことや販売することを意識させることに留意している。このスタイルの学習では、個々の作業力に応じた作業内容を設定することが可能である。また、個に応じた自分の役割をこなすことで、人の役に立っている気持ちを持ちやすい。さらに、相手を意識しながら協働することで、あいさつ、マナー等の実際の社会生活場面でも必要な事柄を習得できると考える。クラフトグループでは木材や自然の素材を用いた製品作りを行っている。

本時は、これまでに製作した製品の販売に向け、お客さんが手にしたくなるようなラッピングや値札付けを行い、商品としての意識付けを促す。

指導にあたっては、生徒一人一人がグループの一員として役割と責任を感じながら作業活動を行うことを学習の中心に据え、制作した製品を、商品としての完成度を高めることを目指す。リーダーの指示内容に沿って作業を行い、「できました」「確認してください」等の報告を行わせる。また、リーダー・サブリーダーは、メンバーの作業確認をチェック表などによって確認させる。これによって、生徒一人一人が自らの役割をこなし、協働しながら学習活動を進めるようにし、他者との関係を意識して働くことを学ばせ、働くことに対して意欲を持たせたい。

指導目標

- 1 集団の中で役割と責任を果たすことができるようにする。
- 2 社会的・職業的自立への意欲を持つことができるようにする。

指導計画 私たちの東雲コーポレーション（全24時間）

- 第一次 商品開発…………… 3 時間
- 第二次 製品作り……………18時間
- 第三次 販売準備…………… 2 時間（本時は1/2）
～販売～
- 第四次 振り返り……………1時間

本時の目標

一人一人が役割を担い、製品を店頭に並ぶ商品として意識して丁寧に扱うことができる。

目 標 行 動	1 学 年	2 学 年	3 学 年
指示を理解し，自制しながら必要な作業を進めることができる。	⑫	⑩	
製品の出来栄をチェックし，作業完了の報告を適切に行うことができる。	⑫	⑪⑩	⑦
他者と協力し，必要な活動に集中して取り組むことができる。	⑫⑬	⑩	
グループ内での自分の役割を理解し，最後までやり遂げることができる。	⑬	⑩	⑧
他者の意見をよく聞き，自分の考えを伝えることができる。			⑨

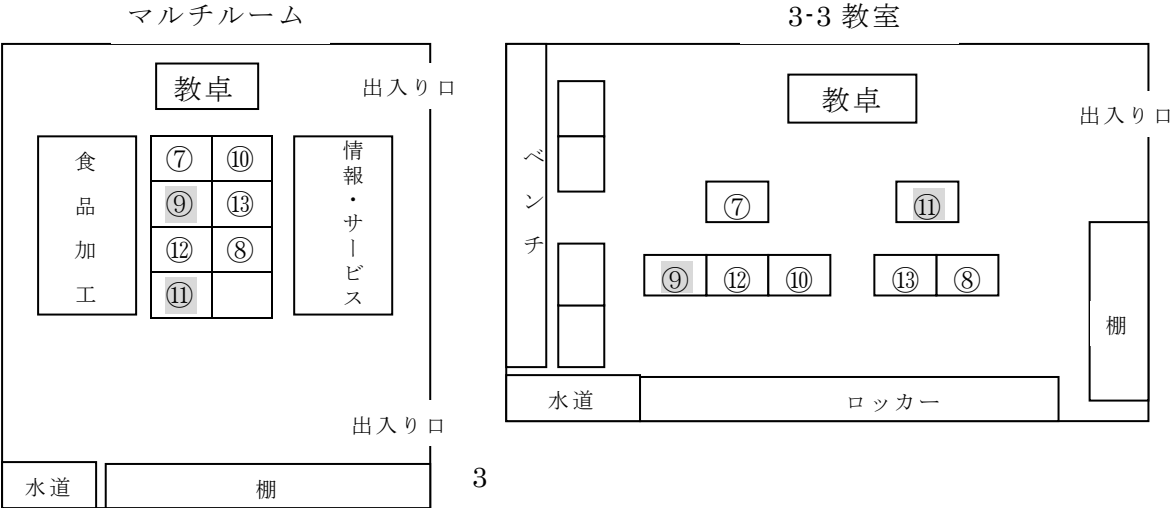
* 網掛は女子

学びのつながりの視点

小学校段階で育んできた基本的な自尊感情を踏まえ、他者とのかかわりの中で自分の力を発揮して活動に取り組むことで、社会的な自尊感情を育むことができるかを、実践を通して検証する。中学校卒業時の「自分の役割を自ら果たそうとする生徒」像をめざし、小中9年間の目標行動として自己肯定感の高まっている姿として5つの Stage を設定し、授業づくりを進めることとした。中学校段階では特に Stage4（集団の中で協力して課題に取り組む生徒）Stage5（自分の役割を、責任を持って果たそうとする生徒）とし、その具体的な姿を目指す。

準備物 製品（リース・メモパッド），予定表，評価表

座席表



学習の展開

学 習 活 動 (○) と 支 援 (●)		留意点 (◆評価)
導 入 (5分)	本時の学習内容・目標を確認する。	
	<全体> ○あいさつ ○各グループの活動内容と目標を知る。 ○東雲コーポレーションの「掟」を唱和する。 ○集合時間の確認をする。→グループの活動場所へ移動 <グループ別>	
展 開 (38分)	グループ別の活動に取り組む。	
	リーダー・サブリーダー (⑤③) メンバー (①②④⑥⑦) ○活動内容にそって指示を出す。自らも作業を行う。 ●指示が明確になるよう事前にしっかり確認しておく。(T1) ○報告を受けてチェックする。 ●チェック表を活用させる。(T1) ○直しがあれば返す。なければ指導者に報告する。 ○振り返りの司会 <全体>	◆指示内容に沿って協働できているか。 ◆目標に沿った評価が適切にできているか
まとめ (7分)		
	本時の振り返りを行う。 ○各グループの代表が振り返りを発表する。 ●集中して聞くように促す。 ○聞きたいことがあれば質問する。 ○指導者のコメントを聞く。 ●本時を評価し、次の活動につながるコメントをする。 ○あいさつ	

参考文献

文部科学省、『特別支援学校学習指導要領』。教育出版。2008。